

令和2年度 大人が支える！インターネットセーフティ推進事業

県教育庁生涯学習課

■事業概要

社会全体で子どもたちをインターネットによる有害情報やトラブル等から守り、インターネットを健全に利用できるよう、安全で安心な利用環境を整える「インターネットセーフティ」を、民間等との協働により、複数の取組方策で推進する。

事業の重点

- ★利用の低年齢化・長時間化等に対応した保護者支援
- ★依存・トラブル等、困難を抱える児童生徒への支援
- ★持続可能な取組を支える地域人材への支援

■取組方策

(1) ネットパトロールと健全利用啓発事業

◎県内児童生徒のインターネット利用行動を抽出調査し最新の動向を把握

➡ インターネットセーフティ推進事業全体の実効性向上を図る

◎不適切な利用行動のうち緊急性の高い事案は、個別調査・即時対応

➡ 学校・関係課と連携しリスクレベルに応じた指導・支援を行う

○H29よりSIA(セーフターインターネット協会)に委託し、ネットパトロールを実施

○小・中・高・特支379校を対象に抽出調査(通年・3巡→簡易報告+定期報告)

*問題投稿検知数…781件(小1、中87、高693、特支0)

*問題投稿リスクレベル…[低]764/[中]17/[高]0(個人情報流布692、いじめ・中傷16、不法行為17、トラブル0、その他56)

○学校からの連絡・相談(FAXによる)…高校2件(なりすまし投稿1、不適切な行動1)

○地域生研総会(9地区)でネットパトロール事業を紹介、学校に活用を呼び掛ける

○要請に応じた啓発講座の実施…22市町村で118回、11,893人が受講

R1実績

主な取組

運営協議会

年2回

担当者連絡会議

ネットパトロール

通年(年間3巡)

研修の実施

各地域生研等で実施

啓発講座の実施

要請に応じて開催

担当者研修会(年2回)

- 低年齢化→小学生の利用行動注視 R2以降
- 問題投稿のリスクレベルに応じた適切な支援
- 啓発講座の対象は「就学前の保護者」にシフト

(2) 青少年教育施設を活用したネット依存対策事業

◎ネット依存傾向の児童生徒を対象にした長期宿泊体験プログラム(自然体験+認知行動療法)を実施

➡ 参加者の変容<基本的生活習慣の確立・コミュニケーション能力の向上・ネット依存傾向からの脱却>

主な取組

事業検討委員会

年2回
(5月、2月)

うまホキャンプ

①メインキャンプ
岩城少年自然の家
(6泊7日)

★意識変化・脱依存のきっかけ

②フォローキャンプ
岩城少年自然の家
(2泊3日)

★振り返り・将来への目標設定

・体験+医療行為+家族会

[協力]
県医師会、秋田大学、
県養護教諭研究会

- 文科省委託事業(H28～) R1実績
- メインキャンプ5名参加(小4名、中1名)
- フォローキャンプ:3名参加(小1名、中2名)
- [協力]県医師会、秋田大学、県養護教諭研究会

- R2は文科省委託事業として継続 R2以降
- 文科省委託事業終了後
→ 県医師会との共催による継続実施を協議
→ 秋田大学、県養護教諭研究会との連携

(3) 人材養成

※消費者行政強化事業を活用(県民生活課)

①「ネット利用の低年齢化」に対応した人材養成事業の実施

・家庭教育支援チーム対象サポーター養成講座…県内2会場/各3回/家庭教育支援チーム

・保育士・幼稚園教諭等対象サポーター養成講座…県内2会場/各2回/保育士・幼稚園教諭・保健師・行政職員・保護者等

②「ネット利用の低年齢化」に対応した保護者支援事業の実施…県内2会場/各1回/未就学児とその保護者

③「フォローアップ講座」の実施…県内3会場/各1回/前年度までのサポーター養成講座修了者

インターネット健全利用に関する新たな情報や課題を共有し、地域人材のネットワークづくりに取り組む。

- 「ネット利用の低年齢化」の課題に取り組む地域人材の養成 R2以降
- 未就学児をもつ保護者を対象としたモデル講座の実施
- 持続可能な取組を支える地域人材への支援